



今月のトピック

伊南村オートキャンプ場がオープン

5月2日やわらかな新緑の中、佐藤知事をはじめ地元の方々が多数参列し伊南村「小豆温泉せせらぎオートキャンプ場」のオープン式が開催されました。

式では、羽染伊南村長のあいさつ、知事祝辞の後、記念碑の除幕やヤマザクラの記念植樹、さらに村内の子供たちによる「子供久川城太鼓」の演奏が行われ盛んな拍手が送られました。

このオートキャンプ場は、伊南村が林業地域総合整備事業の補助を受け平成9年度から3カ年をかけて、平沢山地内にキャンピングカーも使用できる32区画のサイトや、炊事棟、シャワー、トイレなどアメニティ施設を造成したもので、カラマツやナラなどの木々を出来る限り残したレイアウトとなっており、豊かな緑に囲まれたキャンプサイトには電源や水道が敷設された区画もあり、すぐ近くの小豆温泉が割引利用でき快適なキャンプが行える施設が整備されています。

これまで通過点であった伊南村に滞在型の施設がさらにひとつ加わり、三ツ岩岳、会津駒ヶ岳、尾瀬等の登山、伊南川流域の溪流釣り、バードウォッチングといった南会津地方の広大で多彩なアウトドアライフが楽しめるベースとして来村者が増え、都市との交流が促進するものと期待されています。

また、佐藤知事はオープン式終了後に、同村古町地区の農業集落排水終末処理施設（古町浄化センター）を視察されました。同センターは平成13年4月からの供用開始予定で、生活環境の改善はもとより、全国有数のアユ釣り場として名高い伊南川の水質保全に役立つものと期待されています。

（森林林業部・農村整備部）



佐藤知事が出席したオープン式

植樹祭が開催

5月23日、第24回全国育樹祭記念の第49回南会津地方植樹祭が館岩村岩下数間沢の村有林で開催され、同村上郷小学校、館岩小学校の児童や、只見町明和の緑の少年団を含む200名の参加者が、オオヤマザクラ、スギの苗木315本を植えて、緑づくりを実践しました。

式典のなかで館岩村の平野虎一さんほか6名の方が緑化功労者として表彰を受けました。また主催者から前述の上郷小学校と館岩小学校、「緑の少年団」のある只見町明和小に記念樹が贈られました。

この植樹祭は、南会津地方緑化推進委員会と館岩村緑化推進委員会の共催で実施されましたが、経費の一部には「緑の募金」が充当されています。

（森林林業部）



生徒によるスギの植付け

アスパラガス生産者、おいに盛り上がる

南会津広域農業圏確立推進協議会では5月26日、長野県飯山市にあるJA北信州みゆきのアスパラガスの長期どり（立茎方法）について調査研修を行いました。豪雪地帯のためほとんどが露地栽培で、部会員は1,900人、栽培面積はJA調べで約500ha、生産額は23億円とちょうど田島町の10倍の規模となっています。

春どりと2季どり（春どり+夏秋どり）、長期どり（春どり+立茎収穫）を組み合わせ、4月から9月いっぱいまで収穫する方法で揺るぎない産地を築いています。この長期どりのやり方は田島町での従来の栽培法を大きく手直しする必要もなく、すぐにも採用できることから、研修参加者を中心に早速取り上げることになりそう。みんなで10万1斗どりを目指そうと、大変盛り上がった研修会となりました。

（地域農林企画室）

林業教室を開講

5月25日、田島町において平成12年度林業教室の開講式を行いました。式では林業教室担当者より教室の内容、日程等についての説明の後、指導林家の玉川眞吾氏（下郷町）、普及指導協力員の渡部善一氏（下郷町）の参加を得て、「林業の担い手が活躍できる条件の整備」をテーマに活発な討論を行いました。

林業教室は、林業後継者を対象に地域リーダーの養成を目的に毎年行われており、基礎技術や知識の習得を目的とした「基礎講座」と、木材加工技術、流通を専門的に研修する「実践講座」に分かれています。本年度は基礎講座に田島町の皆川善磨さん他2名、実践講座に館岩村の鈴木秀明さん他1名の計5名が教室に参加しています。（森林林業部）

緑の少年団結団式

5月18日、只見町明和地区の只見町立明和小学で、緑の少年団の結団式が行われました。結団式では、小沼只見町長、南会津農林事務所長（代理同森林林業部吉田林業課長）の挨拶、緑の少年団制帽等の授与、団長の誓いの言葉、指導員からの説明がありました。同校では今年度、4年生から6年生まで43名が緑の少年団に参加することになります。この誓いの言葉は団長である山内香君が、「この一年間、緑に親しみ、緑を愛し、緑を育て美しい郷土をつくりたい」と元気の声で述べました。林業普及指導協力員である馬場隆介さんから「宮城県気仙沼市の緑の少年団が、漁業と山林での植林の体験を行っている」との話があり、団員が興味深く聞いていました。（森林林業部）



この人を知りたい

「森林をあるべき姿に導く」

下郷町弥五島 玉川 眞吾さん（林業普及指導協力員）

下郷町弥五島に住んでいる玉川眞吾さんは、今年74歳になりますが、元気で所有山林の手入れを積極的に実施している方です。

玉川さんは、営林署に7年間勤めた後、実家の都合により昭和24年から先祖代々の農林家を継ぐことになりました。そのために技術的に経験の少ない部門のために矢吹町にある全国酪農講習所に昭和25年から2年間研修を受けました。このように幅の広い多角経営にたずさわってききましたが、酪農については、30年継続した後に取り止め、現在は農業、林業を中心に経営をしています。

林業については、昭和24年から30歳の山林の手入れを始め、当初は雑木林を伐採し、スギを植栽し、雪起し、下刈、除伐、間伐と吾子を育てるように慈しみながら育ててきました。30歳といってもまとまっているのではなく、各地に40カ所も点在しているため、大きいところでも1畝程度の林分しかありません。しかし、これらの施業は、氏が営林署で築き上げた実績によるものと言っても過言ではありません。この間の手入れの実績は、福島県林業コンクールにおいて造林業部門で、下刈3回、間伐3回、枝打4回各部門にチャレンジし、それなりの賞を受けております。これらの森林の手入れの実績が認められ、平成7年滋賀県で行われた全国育樹祭で育樹活動部門で表彰を受けられました。また、森林林業の指導者として平成4年に指導林家、7年に普及指導協力員の認定を受け、現在も活動をしています。



そして、林業の担い手たる下郷町森林組合の理事を3期、その中で副組合長を2期勤めました。また従来からあった林業改良普及協会ときのご組合が平成8年に林業振興協議会に合併した際、同会長を引受け、12年4月に3期目に入り、若手に引き継ぐ最後の仕事に打ち込んでおります。氏のモットーは、森林も人も真心をこめて接していることでもあります。その他の部門では、農業委員を3期、また弥五島地区の区長を2期と、農林から行政まで幅広い分野で活躍できるのは氏の努力のほかにも人から愛される性格を有しているからであります。

家では、昭和28年に結婚されてから、仲むつまじく農林業を共に経営されてきた奥様と長男家族に囲まれ、幸せな家庭の姿が想像でき、今後も元気で活躍されることを祈り、紹介の終わりとします。

（森林林業部）

田島町も雪解けとともに山菜採りが始まり、マニアの中には、シーズン中一度は行ってみたいと気が済まないという場所を秘めている方も多いようです。また、最近では自然食やアウトドア志向で、外部からの入山者も多くなり、地元民との間で何かとトラブルを起こすケースも多くなっています。

以前は里山で農作業の合間にも十分採れたものが、今では奥地に入ってもなかなかとれなくなったという話をよく聞かされますが、山菜が減ってしまったのは、外部からの入山者が増えたことはもちろんですが、地元民にとっても山菜が商品化されたことで、つい多量に採ってしまうことも要因のようです。特に山野に自生する山菜等は、自然環境の微妙なバランスの中で生育しているものが多く、乱獲の影響はてきめんです。

一方、外部の者を積極的に受け入れて資源利用に結び付ける1つの方法として、観光山菜園に取り組むケースも各所で始まりました。

田島町では、大字藤生地区が、町のほぼ中央にそびえる^{はさみやま} 鉢山はさみやまのふもと一帯、85ヘクタールの町有林を借り受けて、平成7年より観光ワラビ園造成を進めています。もともとこの一帯は、昔から地元藤生の採草萱場の入会山が、大正年代の林野統一で公有地となり、現在の田島町へ承継されたため貸借地となっても、従来どおりの採草萱場として利用してきた場所ですが、昭和40年代に入ってから、採草利用が途絶えております。しかし地元にとっては、草地の魅力も捨てがたく、古くからの慣習である全戸出役による山焼きを続けることで、集落内の結束を図りながら草生を守ってきたため、ワラビやキキョウ等が数多く自生していて、展望も良く景観的にも優れた場所となりました。

近年、草地内に林道が整備され外部からの入山者が増えたことで、入山料の徴収を始めたところ、年間1,000人程度の入込みがあり、改めて山菜資源の効用とそれを守る大切さが浮き彫りになりました。しかしワラビの根株の保護・増殖には、保育を継続する必要がありますため、毎年4ヘクタール分の下刈、施肥を一部町の助成を受けて続けています。

入込み実績は、平成7年1,319人(45日間)、平成8年1,558人(42日間)、平成9年1,755人(44日間)、平成10年1,788人(50日間)、平成11年2,125人(52日間)と順調に伸びており、観光ワラビ園が山野利用の新しいケースとして他にも注目しているようです。

藤生観光ワラビ園が名実ともに地域のシンボルとして継続発展していくことが期待されています。



藤生観光ワラビ園からの展望



～研修会・講習会等お知らせ～

農業短期大学校・会津農業センター研修

内 容	日 時	場 所
①畜産コース：「家畜糞尿処理の手法と堆肥の有効利用」	6月20日	会津農業センター
②花きコース：「花き経営を再考する」	6月23日	会津農業センター
③農産加工受入研修：「菓子パン加工」	6月26日	農業短期大学校
④共通基礎：「農業における環境問題について」	6月27日	会津農業センター
⑤果樹コース：「会津地方におけるブルーベリー栽培の展望」	6月28日	会津農業センター
⑥園芸課題研修：「野菜の養液栽培」	6月29日	農業短期大学校
⑦農業機械研修：「野菜の養液栽培における新技術」	6月29日	農業短期大学校
⑧農業機械研修：「トラクタけん引」	7月3～7日	農業短期大学校
⑨農産加工研修：「アイスクリーム加工」	7月5日	農業短期大学校
⑩農業機械研修：「コンバイン保守点検整備」	7月12～13日	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262

南会津地方で育み、そだてていきたいもの

よく話に出されることであるが、南会津地方は神奈川県より広い面積に250分の1の3万5千の人々が四季折々の自然の中でゆったりと暮らしている。どっぷりと浸かっているとなかなか見えないものであるが、春の雪解けとともに始まるブナの木の花吹雪、口に含んでみたくなるほどの清流、夏は目前に迫る山からの涼風、全山紅葉の秋、辺り一面真っ白となり人々に人間の非力さを痛いほど思い知らせてくれる冬と、何気なく通り過ぎていく風景は都会人からすればうらやましく目に映るに違いない。うろ覚えで間違っているかもしれないが、1km四方に3,000人以上の人が住むような場所では緑を欲しがる比率が急上昇するそうである。昨今の都会でのガーデニングブームはその現れなのかもしれないが、南会津の大自然と比ぶべくもなからう。自然だけでなく、日常何気なく交わされる会話の中にも味わい深いものがたくさんある。駒止トンネルが抜けた今はそうではないが、昔、駒止峠は名前のごとく駒(馬)をも休ませずにおかない交通の難所、旅人はそれこそ難儀して峠越えし、辿り着いた先々で「しなな、良く来やった。」と暖かな出迎いの言葉をかけられることになる。旅人の道中の苦労を思いやる心の優しさ、気持ちのゆとりは一体どこから生まれるのであろう。思いやりの心と、胸に響く美しい地元言葉はこれからも語り継ぎたいものだ。

ところで、しばらく前になるが長野県伊那谷のある村を訪ねたことがある。天竜川に沿って僅かな耕地が広がるその様は、南会津地方によく似ている。そこには昭和30年代まで日本の農村部ならどこにでも見られた「ゆい」の姿が今も残っていたのである。不利な条件だから生活するにしても、農業を営むにしてもお互いに助け合うことが必要であったろうし、経済の荒波から身を守るには山間地なればこそ農機具の共同利用で無駄な出費を抑え、子供の教育に賭けたのだろう。

南会津ではどうなのだろうか、先々を考え、それぞれに何か手だてを講じているのだろうか。未だ残されているもの、失いかけてつあるもの、失ってしまったもの、取り戻せるものなら取り戻してみたいが・・・。

地域農林企画室長 田村 万

ふるさとも顧みて

「ふるさと讃歌」

東京都台東区 馬場 健一さん
(南郷村下山出身)

南会津高校第3期生で、故郷を離れて46年になりました。現在、浅草でホテルを営んでおります。3年前、本名村長の肝いりで発足した「ふるさと南郷会」の会長を務めております。お陰様で近年、野岩鉄道の利用と相俟って南会津と台東区浅草との交流も大変活発になって参りました。

去る五月中旬に、さかい温泉さゆり荘に宿泊致しました。展望風呂から眺める新緑の山々は優しく、泳ぎを覚えた伊南川を見下ろしておりますと、当時の水遊びの歓声が聞こえて来るようです。雪道が陰しくて有名な駒止峠もトンネルの開通で便利になりました。立ち並ぶ家々も萱葺き屋根から近代風に変わりましたが、その温かい眺めは少しも変わっておりません。富田中学校のあった和泉田と下山を結ぶ「へつり」の富田橋も昔のままでした。当時は欄干の幅がもう少し広く、腕白だった私はその上を毎日悪友と競争をして渡り、先生にお叱りをうけたのを覚えております。

戦後、我が家は兄がシベリアに抑留されており人手不足だったので農作業を随分手伝いました。田植えの時の笹巻きと黄な粉の味は忘れられません。代掻きも田んぼが鏡のようになり綺麗なものでした。定規を使って後ろに下がる田植えには、手の遅い私の向う脛にゴツン。

現在、私のホテル1階お食事処「やかた」にて、会津高原冷地産のそば粉で純手打ちそばを打っておりますが、「こだわり」のそばとして月2回のそば会も好評です。体力の要るそば打ちが出来るのも農作業で培われた強靱な腰のお陰と感謝しております。



問い合わせ

あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5349
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真
ヒメサユリ群生地 (南郷村)



古紙配合率50%再生紙を使用しています

この広報紙は
古紙配合率50%再生紙と
SOY(大豆油)インキを
使用しています。

